

ここまで来た

静岡県立磐田南高等学校定時制
2年 平口 幸大
(アルバイト 16歳)

この学校に入学してから、2度目の春が過ぎようとしている。このごろ時がたつのがつくづく速い気がする。

4月7日。入学式の日は、確か熱でダウン。1日目からものすごく不安だったのを覚えている。今となつては笑い話だ。それでも、1年が過ぎ、色々なことが変わった。むしろ、変り果てている気もする。正直、定時制に来て人生が変わったと思う。

特に頑張っていることといえば、仕事だ。職場は、元々働いていたラーメン屋に別れを告げ、今は大手スーパーの精肉をやっている。毎日何十キロもの肉を運んで切つて、お客様への感謝の気持ちも忘れずに、商品を提供する。

「お買い求めいただき、ありがとうございます。」

営業スマイルでニコツとするわけなのだが、内心は、

「まだこんな時間か。」

「早く帰つてゆつくりしたい。」

「もうイヤだ。辞めたい。」

という声が響いている。とても苦痛な時間なのだ。

でも、辞める訳にはいかない。母子家庭で、女手一つで育ててくれていた母に、負担をかける訳にはいかない。弟も妹もいる。家族がいる。友人がいる。恋人もいる。だからこそ、僕は働きたいがあると思う。自分が無理しても働いて、誰かが少しでも幸せになる。これだからこそ、仕事は辞められないし、弱い自分にも負けたくはない。毎日こんな大変なことをしているが、でも僕には学校があるから頑張ることができているのだと思う。

学校生活。僕には楽しさをすごく感じられる場だ。先生に、何かあったら相談できる。友人と、バカみたいに笑うこともできる。もちろんケンカもする。でも、いつかは仲直りして、お互いに気を配り、助け合う。これら一つひとつのことは地味なことだろうけれど、こういうことを、小さな幸せとでも言うのではないだろうか。

入学して1年過ぎた2年生になったからこそ、わかることがたくさんある気がする。これから先どんなことがあっても、絶対にめげずに、仕事と

学校生活を頑張っていると思っっている。

仕事はつらいことがあるけれど、楽しい仕事もある気がする。特に自分の趣味を仕事にするのは素敵なことだと思う。

僕も一応副業はやっている。精肉をやりながら、マジシャンもやっているのだ。小学校6年生からやり始め、今年目くらいを迎えようとしている。

ワシコインフルエンザに、カラーチェンジ、4 Ace。エレベーター。今では、ホテルや旅館などにも、よく呼ばれるようになった。

僕自身、本当は人前に立つのは全然好きではない。むしろ、嫌いだ。でも、楽しいこともある。自分が楽しむことで、不思議に見ている人も楽しくしてくれるのだ。これほど嬉しいことは無い。自分に、自分のやっている仕事に、誇りを持っている。

でも、こんなにも楽しいのに、プレッシャーからのストレスはすごい。帰って毛布にもぐるだけで、すぐ夢の中に行けるくらいだ。ただ、寝ても疲れは取れない。でも、それほど感じているストレスも、学校の部活で発散できるのだ。

僕は今、学校の軽音楽部に所属し、ドラムを担当している。難しいような曲ができると、やはりものすごく嬉しい。部員とも仲がいい…のかな。なんとか続いてはいる。多少ごたごたしたり、言い合ったこともあった。でもやはり思う、助け合わないといけない、と。

人は助け合わないといけない。よく聞く言葉だけれど、でもその通りだと思う。親がいて、自分がいる。自分がいて、仲間がいる。仲間がいて、みんながいる。色々思い返してみると、自分で実感できる。人が生きていく中で、やはりつながりつつ絶対が必要だと思う。こんなにいるのは無駄に生きていることだと思う。一日一日を思いっきり生きていきたい。それが僕の願いだ。